



新理事長就任挨拶

理事長 大塚 勝弘



(株)都市交通テクノロジー
代表取締役

この度、上高家前理事長の後任として、本協会理事長に就任いたしました(株)都市交通テクノロジーの大塚勝弘でございます。私にとって重責ではありますが、本協会の発起人の一人として協会を立ち上げ、運営の一角を担ってきた経緯からお受けすることとなった次第です。

本協会は設立15年を迎えますが、設立以来、交通信号施設に関わる公共工事の品質向上に取り組み、また本邦初となる交通信号工事に関わる各種技能検定制度の発足、各種の技術講習などを行ってきたところです。

私が交通信号業界に入りました1967年は「交通安全施設等整備事業に関する緊急措置法」が施行された三年目にあたり、いわゆる交通戦争と言われた交通事故多発を受け、国を挙げて交通事故防止に取り組む事となった時期でありました。

以後、様々な新技術が導入され機械式の信号制御機から電子式制御機へ、定周期式信号制御からコンピュータ制御へと変革が行われた時期でありました。また交通信号工事においても信号制御機能高度化に伴い単純な信号機設置工事から多様な機器設置工事が求められ、これに応じて技能向上が図られ今日に至っています。昨今では日本経済の停滞を受け、交通信号工事予算の減少傾向にある現状は、活気ある交通信号業界を知る者の一人として一抹の寂しさを感じているところです。

しかし、交通信号施設は道路交通機能維持に不可欠であり、今後一般道路において自動運転が実現されても、そこには歩行者がおり、また自転車等の様々な軽便な乗り物があり、交通信号施設の必要性、重要性が変わることはありません。今後、益々のIT社会の進展に伴って交通信号施設も変革を求められ、我々が行う交通信号施設工事もこれに対応していかなければなりません。

交通信号施設に関わる公共工事は社会基盤を支える必要不可欠なものであり、我々もこれら事業に携わる社会的意義を自覚し、これらを通して社会貢献していく気概と誇りをもって、また現場でこれらの業務に実際に携わる従事者であるエッセッショナルワーカーの皆様を支えていく環境創りに努めていきたいと思っております。

交通信号業界を取り巻く環境は楽観できるものではありません、また、平坦な道ではないかもしれませんが、しかし我々交通信号工事業界の健全な発展が社会貢献に通ずる道であることを肝に銘じ、協会運営にあたる所存であることを申し上げ、私の就任のご挨拶といたします。

令和5年度定時総会の開催

令和5年度定時総会を令和5年6月15日、東京都墨田区の第一ホテル両国にて開催しました。

○ 審議事項

- ・ 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算報告並びに監査報告に関する件
令和4年度事業として調査研究事業、普及事業、技能検定事業、技術講習事業、その他この法人の目的を達成するための事業についての報告、決算報告、監査報告があり、いずれも了承されました。
- ・ 第2号議案 任期満了に伴う役員を選任に関する件
理事25名(留任17名、新任8名) 監事3名(留任1名、新任2名)

○ 報告事項等

- ・ 令和5年度事業計画及び収支予算について
- 定時総会終了後講演会を開催し、その内容は下記のとおりでありました。
 - ・ 警察庁交通局交通規制課 吉川真人様 【交通安全施設の喫緊の課題】について
 - ・ 当協会参与 平島憲治様 【交通インフラDX推進コンソーシアムの概要】について
- 定時総会終了後第2回理事会を開催し、上高家理事長勇退(顧問として再任)に伴い新理事長には大塚勝弘氏が就任されました。

兵庫県警察総合災害警備訓練に協力

令和5年1月24日（火）、兵庫県三木市志染町兵庫県広域防災センターにおいて兵庫県南西部（山崎断層）を震源とするM8.0の地震の発生を想定した兵庫県警察総合災害警備訓練が実施されました。

訓練では、実災害を想定し、緊急交通路の確保、映像による情報収集、ヘリコプターによる部隊輸送、要救助者の救出救助、救急・医療への引き継ぎ、検視・検案及び遺族対応といった発災直後からの、一連の警察活動及び関係機関との連携について訓練が実施されました。

訓練に参加した団体は、近畿管区警察局（兵庫県情報通信部）、陸上自衛隊姫路駐屯部隊、明石市消防局、三木市消防本部、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社 兵庫県支部、兵庫県医師会、兵庫県監察医務室、日本DMORT、全信工協会、兵庫県警察学生ボランティアで、当協会は、仮設信号機を設置し、被災信号機の復旧等を実際に体験して頂きました。

また停電時におけるEV車による信号機への給電を体験して頂き、交通信号用可搬型LPガス発電機は実演と展示を行いました。



仮設信号機の設置状況



閉会式の状況

近畿管区警察局広域緊急援助隊訓練に協力

令和5年2月9日、令和4年度近畿管区広域緊急援助隊合同訓練が滋賀県蒲生郡日野町北脇1-3の県警機動隊敷地内で開催されました。

令和5年2月9日午前7時、停滞する梅雨前線の活動が活発になり、局地的な豪雨が数日間続いたことから東近江市を中心に河川の氾濫や土砂崩れ等が発生し、家屋や車両の埋没などの被害が多数発生しているとの想定で実施されました。

なお、訓練には近畿2府4県の警察広域緊急援助隊計約300人と消防、医療、土木など関係者約110人が参加され当協会は、災害により信号機が倒壊した為、仮設の信号機を設置し、パトカーが交通信号用可搬型LPガス発電機をトランクに搭載し現場に搬入、設置、制御機への給電というシナリオの設備設置を行いました。



仮設信号機設置状況



LPガス発電機搭載状況

交通信号工事甲子園(西日本ブロック大会)

第7回交通信号工事甲子園西ブロック大会を令和5年6月5日に三重県菟野町で開催しました。ご来賓として、衆議院議員 石原正敬様、中部管区警察局様、三重県警察本部交通部参事官 須川洋幸様のご臨席を賜りました。

令和2年に開催の予定であったのがコロナ禍のため、本年が4年ぶりの開催となったことから、災害現場に必要な信号定数の設定を8人で競う競技と災害復旧の一環である建柱作業を過去の優勝7チームで競うことといたしました。

今回は、NHK「ニッポン知らなかった選手権」放映のため、多くの撮影スタッフが入り、普段とは違った緊張感で競技会場が包まれ、普段の現場では絶対にしない失敗も散見され、選手の皆さんもよい経験をしたと感想を述べていました。

なお、今回からオンラインで競技を視聴できる様、カメラとネット環境を整え盛況のうちに終了しました。なおNHKの放映については、決定次第協会ホームページ等でご案内いたします。

個人競技

順位	所属会社
優勝	洸陽電気工事株式会社
準優勝	株式会社シンコーワ
三位	株式会社シンコーワ

団体競技

優勝	株式会社シンコーワ
準優勝	株式会社デューイテクニカル
三位	五島電気建設株式会社

最優秀班長賞(団体競技)

所属会社	株式会社シンコーワ
------	-----------



開会式をNHKが撮影



配線と定数設定の個人競技

交通信号工事甲子園(東日本ブロック大会)

第7回交通信号工事甲子園東日本ブロック大会を令和5年7月12日に埼玉県熊谷市の株式会社アイテック敷地内で開催しました。新理事長の挨拶を皮切りに各社の代表選手たちは、専門知識と技能を発揮し真摯に競技に取り組みました。

ご来賓には警視庁交通部交通管制課様、公益財団法人日本交通管理技術協会様のご臨席を賜りました。

午前中の競技は、経験年数の浅い選手が参加した個人競技を実施し、安全性、正確性、迅速性による評価を受け今後の作業に繋がる大会とし 午後から団体競技を実施しました。

競技内容

個人競技：架空線取付、配線、接続、点灯確認

団体競技：車両灯器取付、架空線取付、配線、接続、点灯確認



選手宣誓

個人競技

順位	所属会社
優勝	株式会社内外
準優勝	常盤電業株式会社

団体競技

優勝	常盤電業株式会社
準優勝	春日電設株式会社
三位	株式会社アイテック
安全性部門賞	有限会社荒井電気工業

会員加入促進会議

会員加入促進会議を令和5年5月22日、鹿児島県鹿児島市において鹿児島県内の交通信号工事を受注している有力会社、株式会社松葉電設、株式会社中島電器、神野商事株式会社、マモル電工株式会社の各代表者様で、当協会からは株式会社町田電気 代表取締役 町田 賢次、株式会社コアテクノ 取締役 工務部部長 橋口 裕介、株式会社デューイテクニカル 代表取締役 秋山 直樹が参加し開催しました。

まず当協会の広報委員長でもある秋山直樹が挨拶をし、その後それぞれ自己紹介を行い最近の全信工協会の活動として

- ① 信号柱への5G基地局設置に関する情報（交通インフラDXコンソーシアム加盟）
- ② 交通信号工事士等資格制度の種別と試験実施予定等について
- ③ 交通信号工事士等資格制度のご採用都道府県警察本部について
- ④ 2028年信号用電球製造終了に伴う信号化や信号機着雪対策等問題について
- ⑤ 交通信号用可搬型LPガス発電機について

を報告するとともに当協会が行う講習会等についても案内したところ、大変興味を持って頂くことが出来ました。

なお、今回は同世代の経営者が集まった事もあり、懇親会も情報交換だけでなく今後の会社経営の話や趣味の話など多岐に渡り終始和やかな雰囲気でお開きとなりました。

全信工中部地区委員会の発足

当協会では「災害時における交通安全施設の復旧対策に関する協定」を三重県警察と締結しており、それに伴い管区広域緊急援助隊合同訓練への協力、大規模災害時の交通信号機の復旧工事、5G対応の交通インフラ推進コンソーシアム等将来に対する課題が山積する中、中部6県の全信工会員でより強力に推進することを目的として理事会規程及び地区委員会設置運営規程に基づき中部地区委員会が発足しました。

その経緯は、全信工専務理事で株式会社シンコーワ 代表取締役会長でもある古市光明氏から「全信工中部地区委員会」の創設提案があり、株式会社北越ティーテック 川下様、株式会社アサヒ電設 西端様、名鉄E Iエンジニアリング株式会社 福井様、株式会社日本総合施設 川畠様にご賛同いただき、令和4年12月9日「全信工中部地区委員会設置発起会」を立ち上げ、続けて中部6県の全信工協会員にその趣旨を訴えたところ、28社全社の賛同があり「全信工中部地区委員会設置準備会」が発足し、第11回総務委員会において「全信工中部地区委員会」の発足について第4回理事会に諮ることを決定し、3月2日に開催した第4回理事会に「中部地区委員会」の設立について諮問し正式に「中部地区委員会」が発足いたしました。

5月12日には第1回「全信工中部地区委員会」を開催し、森岡豊氏を初代委員長、副委員長を堀野正明氏として選出、当面の活動として第7回交通信号工事甲子園の開催への協力、今年度福井県で開催の中部管区広域緊急援助隊合同訓練への協力を決定した。

また、「全信工中部地区委員会」の発足に伴い中部管区警察局及び中部6県警察本部を訪問し、より強力に協力できることを説明しました。

お問合せ先

〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目1番4号

一般社団法人全信工協会

TEL:03-6659-3586 FAX:03-3846-5582

URL:<https://www.zenshinko.jp> E-mail:info@zenshinko.jp

※各会員様の連絡担当者等の変更・追加(複数も可能)につきましては、氏名、所属、役職、メールアドレス、電話/FAX番号を全信工事務局までメール(info@zenshinko.jp)にてご連絡頂きますようお願い致します。